

リハビリテーション学部 20周年記念行事を開催します。

2026年11月の開催を予定しております。

以前、西九州大学に勤務されていた先生方もご招待する予定としております。詳細が決定しましたら各期のLINEや同窓会のホームページにてお知らせいたします。皆さまのご参加をお待ちしております。



卒業研修会の開催報告 (2025年度)

西九州大学リハビリテーション学部同窓会卒業研修会

■西先生の講義：「臨床に直結する解剖学的知識と理学療法」



今回は「臨床に直結する解剖学的知識と理学療法」をテーマにご講義いただきました。学生時代に学んだ解剖学の基礎を丁寧に振り返りながら、近年の研究知見を交え、日々の臨床にどのように結びつけて考えるかについて分かりやすく解説していただきました。講義では、解剖学的知識の再整理に加え、評価や介入へとつなげるための視点や思考過程についても具体的に示していただき、参加者にとって理解を深めやすい内容となっていました。参加者は講義内容を自身の臨床と照らし合わせながら熱心に聴講されており、対面形式ならではの一体感のある研修会となりました。「明日からすぐに活かせる考え方を学べた」「基礎の重要性を改めて実感した」といった声が多く寄せられました。



■久木崎先生の講義：「上肢運動器疾患に対するハンドセラピー」

上肢運動器疾患患者に対する介入をテーマに、橈骨遠位端骨折の機能障害に対する訓練法や日常生活場面でアプローチをする際の考え方について、動画や画像を用いて分かりやすくご講義いただきました。講義終了後、質疑応答の時間が足りないほど参加者からの質問が多くあり、参加者の関心が高まる講義内容だった印象です。参加者からは「ハンドセラピーについてもっと知識を深めたい」といった声が多く寄せられました。



ひとやすみ ~ 同窓会役員をつぶやき ~

13期卒業生 長尾 絃希

西九州大学リハビリテーション学部13期卒業生の長尾絃希と申します。現在、同窓会役員として活動しています。今回は私自身の趣味についてお話をさせていただきます。私はプロ野球チームの福岡ソフトバンクホークスのファンです。常勝軍団と言われるチームですが、今年は序盤にリーグ最下位と苦しみました。しかし、最終的にはリーグ優勝と日本一を達成されました。主力選手の怪我が相次ぐ中、控え選手や2軍にいた選手たち、つまり全員が活躍したと言っても過言ではない今シーズンでした。今季優勝できたのは監督・選手も口にされていた『役割』という言葉が要因ではないかと思っています。小久保裕紀監督は『役割』について、「離脱した選手の穴埋めとしてプレーするのではなく、今の自分が何をすべきかを考えて試合に臨むことが重要だ」とシーズン前から話されていました。さらにスローガンとしてPs(ピース、プロフェッショナルスピリット)を掲げ、1人1人がプロである自覚を持ち、チームの1つのピースになるよう今シーズンをスタートしました。そして、その言葉通り1人でも欠けることがあれば優勝はなかったと素人ながらに感じました。試合後のインタビューなどを通して『役割』が大事ということを聞くことが多かったのですが、大事なのは今の自分に何が出来る、何が出来ないのかを考え、集団1つになって全体で物事を達成することだと思います。今年のプロ野球は私の職種である理学療法士にも関連していると感じます。1、2年目の時は患者様に対して評価・治療をし、ADLの向上を図ることが仕事だと考えていました。しかし、それだけでなく医師、看護師、社会福祉士、栄養士、その他の職種と協力し、患者様に寄り添うこと、自分なりの治療プログラムの方法、寄り添い方を日々考えながら仕事することが理学療法士として働く上で必要なことだと思い、日々仕事をしています。まだ3年目と若い年数ですが、1人のプロの理学療法士としてこれからも自分自身と向き合っていきたいと思っています。

